

## 成田 歴史 玉手箱

●44回●

歴史と伝統文化の  
まち・成田。市内に  
は、歴史ある文化財  
が多数あります。

### 郷土誌の刊行

## もっともっと知りたくなる 故郷のこと

「わたしたちのふるさと郷部・荒海・西和泉がどんな村で、そこに生きた人々がどんな気持ちで暮らしてきたか、先人の歩みを記録しようと始めました」と郷土の本を編集された皆さん。昔の資料や写真を調べたり聞き取り調査を行ったりすると、地区内には数多くの文化遺産が残されていることをあらめて知ることができ、新たな発見もあったといえます。

近年、市内各地で住民や学校などが主体となった“郷土”に関する本が作成されています。『和泉の郷 ふるさと歴史探訪』『語り継ぐふるさと郷部・美郷』『荒海区の郷土史・あらみ』や、小中学校の副読本として『わたしたちの豊住』『豊住のむかし』『わたしたちの公津』『わたしたちの三里塚』などが刊行され、現在、松崎地区でも『郷土松崎の足跡を探して』が作成中です。

成田市は観光と農業のまちづくりを掲げスタートし、昨年、市制施行50周年を迎えましたが、空港建設や各地域における大規模な宅地開発などで景観が一変。生活様



地域の人々による郷土研究の本

式の変化は郷土の歴史や文化を振り返る契機となりました。これらの郷土誌からはきちんと記録にとどめたいという気持ちや、先人の知恵や苦勞など歴史の重さを感じるとともに、新たなふるさとづくりに役立てたいという人々の思いが強く感じ取れます。一方、市内には古くから語り伝えられた話がたくさんあります。郷土に伝わる話を語る機会が減り、忘れ去られようとしています。『成田のむかし(16話の小冊子)』『成田のむかしばなし』『昔話を語り継ぐために』(1・2)などの本には、平易な言葉で人々の暮らし、習慣、考え方や歴史などがいっぱい詰まっています。

しかし、これらの本は販売が目的ではないので書店にはありません。市立図書館2階の参考資料室の「郷土資料コーナー」で閲覧することができます。このコーナーにはそのほかにも郷土に関するさまざまな本があります。

古き良き成田を知る人、成田が第二のふるさとの人、これから成田がふるさとになる人など、成田にはたくさんの方が暮らしています。これらの郷土誌は、身近なところに有形・無形の遺産があることを教えてくれます。



だれもが楽しく読めるものばかりです

### 編集後記

ことしもそろそろ申告の季節。税と聞いただけで気が重くなりますが、申告となるとなおさらです。初めての人は自分で申告書を書くのはとても無理とあきらめているのでは。中には難しいものもありますが、給与や年金所得

の還付申告なら簡単です。結婚などで年の途中で退職された人は申告で税金が戻ることも。どんな申告をすればいいのかが早めに税務署や市の税務課に相談しては。その上で自書説明会(5ページ)に参加すれば万全です。